

< 講義年月日 > 2005年5月11日(水)

< 講演者 > 岡本聖氏(慶應義塾大学三田メディアセンター パブリックサービス担当レファレンス)

< テーマ > 海外交換研修トロント大学へ: テクノロジーの変化と方向性

< 講義内容 >

1. 海外交換研修

慶應義塾大学とトロント大学(カナダ)では2002年に協定締結以来、約半年単位の交換研修を行なっている。

2. トロント大学図書館について

約35の図書室があり、コレクションは1千万以上。現在は書庫の狭隘化により保存庫を建設中。

3. トロント大学と慶應義塾大学との違い

- Specialist と Generalist ... 一つの部署に長くいるトロントに対して慶應(日本の大学)では部署間の人事異動があるため、教員が求めるレベルに達するのに時間がかかる。
- Master Degree(大学院卒図書館員) と Bachelor's Degree(学部卒図書館員)
- Strong Relationship in Ontario と Competing in Japan ... オンタリオ州で他大学と一括で電子ジャーナルの代金等を支払うトロントに対して慶應は大学独自で支払う。

4. U of Tの代表的なサービス(全てWeb上で行なうことが出来る)

- My Account... 本人の貸出状況の確認や貸出資料の更新が出来る。
- My Library... 自分が必要な部分だけのリンクを貼り、My pageを作成する。
- Live Help... チャット式のレファレンス。
- DB・EJ管理 EIRシステム... トロント大学独自のデータベースと電子ジャーナルの一括管理システム。
- T-Space... 機関リポジトリ。例えば教員が執筆した論文をデジタル化してここに入れる。

5. Ontario Scholars Portal オンタリオ州の全大学が参加しているコンソーシアム的な活動団体。

- E-JournalのLocal Load... 電子ジャーナルをトロント大学では自前のサーバーに保存。
- E-books... Net Library, Early Canadiana Online
- Resource Sharing... RACER ILLシステム 利用者が直接所蔵大学にILLの申込みが可能。
- SFX... 異なるデータベースのパッケージやリポジトリを一つにつなぐもの。クリックによって色々な情報にたどり着ける。

6. Scopus エルゼビア社作。トロント大学ではこれを今後ゲートウェイにする可能性がある。

7. Catapult Project(GoogleのようなOPACを作ろうというプロジェクト)

検索結果のランキング、綴りの間違いを指摘する機能、サーチガイドを搭載する予定。

8. 何故トロント大学ではプロジェクトが次々生まれるのか

- ITSというIT関連部署の巨大さ... スタッフは20名以上。
- Information Scienceを専門とするスタッフ... 専門に勉強してきており図書館知識もある。
- 明確な役割分担と計画性... 計画は何年か分を月単位で明確に示している。
- 計画 検討 決定までのスピードが速い... 1年で1プロジェクト完成ぐらいのスピード。

9. 技術が向かっているベクトル

- One Stop Centralized System... OPACやデータベースを一つにするシステム。
- 既存のOPACはゲートウェイには成り得ない... Scopusなど他のデータベースを入口として考えている。
- アクセスのみならず所有... 蔵書のデジタル化。電子ジャーナルの中身も所有。
- Off site campus... 非来館型のサービスへ進んでいく。
- Personalize... 個人別のサービスが増えていく。

10. おわりに

北米と日本の大学図書館の差は大きく、5~6年差どころではない。但し文化の差も、図書館経営の違い、人材の問題も有り、すぐに真似を出来るというものでもない。